

## 第96回メーデー

## 5月1日 県内各地域で集会

# 平和と民主主義・くらしを守れ



▲集会の最後に350名で団結ガンパロウ

5月1日メーデーは8時間労働制の確立や労働者の権利と平和を守る国際行動日として世界各地で取り組まれ、起源は1886年5月1日米国で35万人がゼネストを実施。日本では1920年5月2日に上野公園で1万人が集会を開いたのが最初。今年で96回目となります。

### 広島県中央メーデー 350人が参加

広島県中央メーデーデモ行進は、平和記念公園から出発。「物価に負けない賃上げを!」「9条を守ろう!」「ロシアとイスラエルは今すぐ停戦をなごころし!」「広島ハノーバー庭園」までの約1.5kmを行進しました。主催者あいさつに立ったメーデー集会実行委員会代表委員の神部泰典県労連議長は「世界では侵略と戦争が続き、子どもや女性の命が絶たれている。長引く物価高騰と実質賃金の低下が続く中、貧

困と格差がさらに広がっている。今、必要なのは、農政を転換し、自給率を大幅に向上させること。食料品だけでなく、すべてのものへの消費税を当面5%へ引き下げ、インボイス制度の廃止を求める運動を強めよう。そして、日本政府が大軍拡を進めることを許してはならない。」と話し、「軍拡よりも国民のいのちとくらし、医療と教育に回せ」を強く訴え、財政を転換するよう求めようと呼びかけました。

### 7団体が活動報告

活動報告では、新婦人広島県本部の岡江津子さんは、「次世代国会行動」に参加。地元議員に「選択的夫婦別姓」問題などを要請。秘書の中には「軍事費は必要。中国や北朝鮮が攻めてきたらどうするんだ」と話す人もいた。参議院選挙では大軍拡より教育・医療・介護に。一人一人が大切にされる世の中をめざしたい。」と発言しました。

年金者組合の利元克己さんは「年金者組合は全国で10万人。イタリアでは300万人が組織されている。大軍拡と増税の中で社会保障費は10%削減。『大軍拡より市民生活が大事』と声を上げよう」と訴えました。

県労連パート・臨時・嘱託労組連絡会(ハリン)の大内理枝さんと田頭奈美江さんは「日本の最賃は諸外国に比べ非常に低い。『今年こそ最賃は全国一律制と1500

円以上』の声を大きく上げよう。6月7日〜8日で広島で開催される非正規集会を成功させ最低賃金引上げへ向けて運動を前進させよう」と呼びかけました。

広島県医労連の藤本美奈さんは、「物価高騰、医療の診療報酬が低い中、賃金が上がらず人手不足。残業や夜勤で疲れ、命が守れない状況。安心して暮らせ、働ける職場をめざし頑張りたい」と決意を語ります。

全教広島の中本雄一さんは「政府が給付法等改定案を審議しているがこのままでは学校が持たない状況。『教育予算の2倍の軍事費にアンパンチ!先生増やせ!』に出来ない給付法改定案にアンパンチ!定額働かせ放題にアンパンチ!と力強く訴えました。

## 4つの地域労連で開催

### 福山統一メーデー

福山地区統一メーデーは約70人の参加。オープニングはバンドの生演奏。集会では3団体から報告。集会後、福山駅周辺のデモ行進では「軍事費を削って福祉、教育、防災にまわせ!最低賃金1500円、全国一律の最賃制の実現を!イスラエルによ



▲福山統一メーデー

続いて、昨年12月にノベル平和賞を受賞した広島県被団協の佐久間邦彦さんは、「賞はいただいたがこれからが課題。受賞を力にみなさんとともに核兵器廃絶へ向けて運動を強めていきたい」と力強く発言。最後はジャーナリスト会議の難波健治さんが「8月6日の広島平和記念公園での式典について近年、入場規制がはいるなど戒厳令を想像させる。市民が自由に参加を求めて声を上げよう」と強調しました。

その後、福祉保育労オハナ分会と後河内さんを支援する会より協議支援の訴えがあり、プラカードコンクール表彰の後、メーデー宣言が採択されました。

その後、福祉保育労オハナ分会と後河内さんを支援する会より協議支援の訴えがあり、プラカードコンクール表彰の後、メーデー宣言が採択されました。

## 呉地区メーデー

### 呉地区メーデー

第96回呉地区メーデーは、晴天の下、堺川野外音楽堂に60人の参加で行われました。呉地区労連森芳郎議長は「異常な物価高騰と大軍拡で命とくらし、平和が脅かされている。私たちのくらしと、平和の面では防衛省が日鉄跡地を軍事拠点にしようとするなど石破政権の大軍拡が進められようとしている。今日のメーデーを、国民



▲呉地区メーデー



2025.05.15から

## 県北メーデー

### 県北メーデー

「三次出合いの広場」を会場に第92回メーデー集会を開催し20名が参加しました。集会では、県北地域労連の岸議長の主催者あいさつがあり、年金者組合など地域の団体のあいさつ、メーデー宣言のあと、働くものの権利を守れ「戦争する国づくり反対」などとコールし最後に「団結ガンパロウ」で集会を終りました。



▲県北地域メーデー

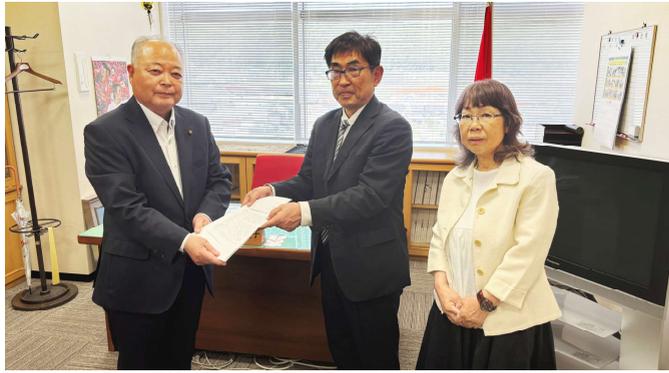
## 推進力

2024年の非正規雇用者は2126万人、働く人の約4割が非正規雇用者。「労働力調査に

よる今の日本の現実だ。4月13日、広島県ハリン連絡会で筑波大学名誉教授田中陽子さんの学習会をおこなった。ドイツのパートは「短時間正社員」であり、給与や処遇において正規・非正規の区別や差別がなく、誰もが人生の必要(育児・介護・趣味など)に対応する柔軟な働き方としてパート労働者を選択できることに衝撃を受けた。日本では1985年導入の労働者派遣法は新自由主義推進の中、適用職種の大、派遣期間の制限撤廃で非正規雇用を一般化し、経済低迷の一因となった。非正規労働者の多くは女性であり、昭和の日本的雇用の慣習のもと「大黒柱」を支える家計補助・おこづかい稼ぎと呼ばれる低賃金と低処遇が当たり前となり、現在に至っても働き方の根本の変化はない。非正規労働者の賃金は諸外国に比べ、低すぎる賃金水準に張り付いている。ようやく今、最低賃金は「2020年代には1500円」との社会機運が高まり、労働組合とおして声を上げ続けた非正規労働者運動に期待が高まっている。6月7日(土)〜8日(日)、広島で『全労連・非正規全国交流集会』が開催される。今年是被爆から80年の年。多くのなかまが「対話と学び合い」を深め、平和と非正規労働者問題を考えるきっかけとなるだろう。私たちに主体者として行動する力が求められている。(T)

# なんじゃらほいほい

No.412 和井かやの



▲三次市議会副議長へ要請書を渡す神部泰議長(中)、医労連の富永みち子さん(右)

「安心・安全の医療・介護の実現を」の課題では、広島県医労連は、全てのコースに要請団を配置し、9組織17名が参加しました。医療現場の実態を含めて、ベッド減らしや介護施設の倒産により患者さんたちが医療・介護へのアクセスを失っている実情を訴え

7月の参議院選挙で争点に

争点に

「働く人の生活を豊かにするために賃金の引き上げが重要だ。同時に中小企業支援、価格転嫁が鍵。東広島では適正価格を認識が賃上げに繋がるとい認識を持った企業とのパートナーシップ制度を設けている」との回答がありました。「全国学力テストの悉皆実施の中止の課題では、ある教育委員会からは「個人的には悉皆(しっかい)の必要はないと思う、文科省も見直しを進めているところであり、市としては現状を注視したい」しました。

# 医療、教育、最賃、暮らし、地域を守れ

## 広島県労連自治体キャラバン

県内24の自治体へキャラバン行動

広島県労連は、5月12日から16日にかけて、県内24の自治体を8コースに分かれて自治体キャラバンを行いました。要請内容は5つ「誰もがどこに住んでいても安心・安全の医療・介護の実現を」「全国学力テストの悉皆実施の中止」「消費税は5%以下とインボイス制度の廃止」「女性差別撤廃条約選択議定書の速やかな批准」「最低賃金全国一律制への法改正」についてです。

また、自治体からは、「看護師も介護士も医師も不足している事に問題意識がある」「物価高による経営悪化を受け、全国知事会で診療報酬の改定や介護報酬の臨時改定を求める緊急要望書を厚生労働省に提出している、引き続き国に要請したいなどの声が寄せられました。「消費税5%以下とインボイス制度の廃止」の課題では、竹原市からは、「人材確保についての支援(家賃補助・奨学金の返済)、企業に対しても賃金アップを実施した事業者に、人材確保の経費の一部として補助を検討している」との前向きな回答もありました。また、東広島市からは、「働く人の生活を豊かにするために賃金の引き上げが重要だ。同時に中小企業支援、価格転嫁が鍵。東広島では適正価格を認識が賃上げに繋がるとい認識を持った企業とのパートナーシップ制度を設けている」との回答がありました。「全国学力テストの悉皆実施の中止の課題では、ある教育委員会からは「個人的には悉皆(しっかい)の必要はないと思う、文科省も見直しを進めているところであり、市としては現状を注視したい」しました。



▲福山市へ要請書を渡す中藤久雄議長(右)

いの健 広島センター

## ハラスメント事例報告に32人

「消費税は5%以下とインボイス制度の廃止」課題では、庄原市のへの要請に参加した、県北民商の会長さんは「消費税の負担が重く、従業員を減らすしかない、価格転嫁もできない」と切実な実態を訴えインボイスは今すぐ廃止を」と強く訴えました。

「消費税は5%以下とインボイス制度の廃止」課題では、庄原市のへの要請に参加した、県北民商の会長さんは「消費税の負担が重く、従業員を減らすしかない、価格転嫁もできない」と切実な実態を訴えインボイスは今すぐ廃止を」と強く訴えました。

「学校現場でのハラスメント事例」や「職場で無視や孤立、仕事を与えないなどが、ターゲットを決められて行われること」や「会議室で複数人から長時間叱責された」などの報告があり、その対応についてみんなで意見を言い合いました。

池上忍弁護士は、「他人の」

参加者からは、「やっぱり人手不足、職場に余裕がないのは、パワハラが増える要因ですね。」「法律ができた、会社にはパワハラ防止規程ができて、それはパワハラ隠しや、個人がガマンすることで見えなくなったりしてい



▲ハラスメント事例で意見交流

## 6月7日(土)～8日(日) 非正規交流会広島

## 被爆80年の広島で一緒に考えよう

6月7日～8日に開催される『全労連非正規交流会 in 広島』の8回目(開催前の最後)の実行委員会を5月17日に開催しました。昨年春の県労連、リン幹事会で「25年の『非正規交流会』は広島で開催しよう」と決定し、昨年6月の佐賀で開催された『非正規交流会』へは、実行委員会の結成へ向けてマイクパスで22名が参加。8月17日には平和公園内のレストハウスで広島自治労連や広島県医労連、広島

合同労組の佐賀に参加したなかまを中心に「非正規交流会 in 広島実行委員会」を結成しました。実行委員会をすすめる中で、交流会へ向けてのグッズの作成や被爆地ヒロシマを伝える企画も入れたいなどの様々な意見が出されました。グッズプロジェクトが結成され、「ジェンダー平等・非正規川柳」の募集とラムネの制作、広島開催記念のTシャツとトートバックもつくることとなりました。碑めぐりと日鉄跡地

と呉海上基地の調査の分科会を企画することも決まり、碑めぐりガイドの養成講座も2度開催。8回目の実行委員会では、出来上がったTシャツやトートバック、ラムネを手にながら本番へむけて参加者の呼びかけや要員の最終調整を行いました。6月7日～8日の本番では全国の500人のなかまとともに、『貧困と格差のない社会』をめざし、被爆地ヒロシマから平和の声を大きく上げよう。



▲Tシャツやトートバックも完成

### 非正規全国交流集会広島

6月7日(土)～6月8日(日)

6月7日(全体会)(13:00～17:00)  
会場：広島アステールプラザ 中ホール

- ◆オープニング
  - 広島のうたごえ 国鉄広島ナッパーズ
  - ◆記念講演
    - 竹信三恵子さん(ジャーナリスト)
    - 『さらに広がる非正規の働き方をどう考えるか?』
  - ◆平和の証言と訴え
    - 被爆の証言 山田寿美子さん(広島県被団協 副理事長)
    - 『ノーベル平和賞とこれからの運動』 佐久間邦彦さん(広島県被団協理事長)
    - ◆パレード 平和公園噴水前～原爆ドーム
    - ◆原爆ドームスタンディング行動

6月8日(日)分科会(9:30～12:00)  
広島国際会議場・広島文化交流会館

## 広島県医労連25春のナースウエーブ開催



▲参加者全員で(広島県庁前)

5月12日の「看護の日」に合わせて、5月10日、春のナースウエーブ行動が取り込まれました。集まったのは7組織38名。白衣に着替え10時から県庁前で、横断幕や現場から寄せられた一言メッセージを持ち寄り、各組織から代表者6名が次々にマイクを握り、現場で直面している厳しく深刻な実態や看護に対する思いをそれぞれの言葉で訴えました。通行人からは「親族が医療関係者です。人員不足で大変だと聞いています。署名くらいしなきゃという気持ちになりました」や「前に市民病院に入院した時、看護師さんたちにはすごくよくしてもらいました。応援しています」など、署名とともに温かい励ましの言葉をいただきました。



## 全教広島第40回定期大会



▲大会での採決

全教広島第40回定期大会は、オンライン併用で5月17日(土)、広島ロードビルで開催されました。大会には支部・専門部選出の代議員など56名(会場、オンラインとも28名)が参加しました。執行部からは、「給特法等改定案の廃案を」「職場、地域での要求実現へむけた共同を広げよう」「共済加入者を組合加入へ」「被爆80年、平和教育の再構築を」などの提案がありました。討論では14名が発言。貧困な教育施策の下で多忙や困難に直面しながらも、その打開に向けた運動に踏み出す決意や、地道な同僚との共同、教育実践などが語られました。

## 5.3憲法集会

ヒロシマ憲法集会が5月3日開催され、オンライン含めて550人が参加。講演で京都大学人文科学研究所教授の藤原辰史さんは、農業技術の発展によって毒ガスなどが生まれ、より悲惨な戦争に突き進んだとし、食や暮らしの延長線上に『戦争へつながる仕組み』があると指摘されました。講演後、「市民の共同の輪を広げ、7月の参院選挙で憲法破壊などの政治を変えて、平和のうちに安心して生活できる社会をめざす」とのアピールを採択しました。



▲550人が参加した憲法集会

スポーツ 県労連